

科学技術のリスク評価における

非専門家の役割

特別講演

戦後日本の食品安全問題を中心に

科学に基づく技術（科学技術）は両刃の剣である。
そして、科学技術のリスク評価を誤ると、後に「想定外」の損害が発生するばかりか、リスク評価を行った専門家集団への信頼が失墜する場合がある。
これはさまざまな分野で、また世界各地で知られていた事実である。

東日本大震災（とりわけ福島原発事故）はあらためてこの事実を我々につきつけた。

では、「想定外」の損害を招かない、もしくは、損害を最小化するようなリスク評価、あるいは、後顧の憂いのないリスク評価はどのようなものだろうか。

ひとつの鍵は、リスク評価に内包される科学的根拠の不定性の特性と、リスク評価に関与する担い手の特性の再考にあるのではないか。

このような問題意識に立って、戦後日本の典型的な食品安全問題を例に、科学技術のリスク評価における非専門家の役割について検討する。

2013 年
1/11 (金)
16:30-18:00
第 2 講義室
理学研究科
合同 A 棟 2 階
204 号室



なかじま たかこ
中島 貴子

国際基督教大学非常勤講師。専門は科学史、科学技術社会論。
名古屋大学大学院農学系研究科（植物病理学）、東京大学大学院理学系研究科（科学史・科学哲学）修了。

主に戦後日本の食と農の科学技術史と政策を研究。

主な共著書『新通史日本の科学技術—世紀転換期の社会史 1995年～2011年第8部生命・環境・安全・防災』（原書房、2012）、『科学技術のポリティクス』（東京大学出版会、2008）



学生、教職員、すべての方を対象にした講演です。どなたでも聴講自由です。

連絡先：本堂 毅 hondou@mail.sci.tohoku.ac.jp（内線 5823）